7 国際交流

進捗状況報告

（１）2003年度に設定した目標
1. 外国語による講義は「Japanese and Asian Economies A ･B」に留まっており、今後の努力が望まれる。
2. 教員の国際交流はリール第１大学との交流が引き続き行われており、さらに韓国・延世大学、シンガポール・シンガポール国立大学との教員とゼミ生同士の研究交流が行われ、活発になってきている。
3. 関西経済界との共同事業は今後の課題である。

（２）2005年度自己点検・評価で記した「改善の具体的方策」
1. 前項（１）の1.に記した通りである。
2. リール第１大学との研究者交流は引き続き行われており、2008年度はEUIJ関西のプログラムを利用して、リール第1大学から研究者を1人招聘する予定である。欧州の他の大学やアジアの大学との交流はさらに努力を続けていく必要がある。
3. 地元経済界との協力を得た国際的連携としては本学産業研究所の主催した企業向けのイノベーション・フォーラムを 2007年秋に開催し、本学部の教員2名がこの活動に直接参加した。

学内第三者評価

外国語による講義については2005年度段階から大きな進展はみられないが、教員・学生の交流は、リール第１大学との研究者交流が様々な形で進められており評価できる。ただ、延世大学やシンガポール国立大学とのその後の研究交流についての記述がなく、自己点検・評価されることが期待される。
また、地元経済界との協力を得て国際的連携として本学産業研究所の主催した企業向けのイノベーション・フォーラムに教員が直接参加したことは評価できる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
留学生の確保に一層の努力が望まれる。
外国語による講義は「Japanese and Asian Economies A ･B」だけである。確かに、その努力は大学院生数が少ない点（計４９人）を考慮すれば評価できるが、国際的需要からいえば一層の努力が必要である。